

こうのとり

但丹家畜衛生だより

第49巻 第1号（平成29年9月）
朝来家畜保健衛生所
（兵庫県畜産協会朝来支部）
TEL(079)673-2331・FAX(079)672-0506
E-mail: asagokhe@pref.hyogo.lg.jp
ホームページ: <http://www.3131.ec-net.jp/>



第11回全国和牛能力共進会宮城大会の風景

1 巻頭言	1
2 家畜衛生情報 家畜・畜産物のJGAP	2
3 家畜防疫情報 牛ウイルス性下痢・粘膜病のまん延を予防しましょう	3
4 家畜疾病情報 ピートンウイルス感染による牛の異常産	4
5 全国及び県内の監視伝染病発生状況	5
6 新規採用職員紹介／平成29年度職員配置	6
7 編集後記	7

巻頭言



第11回全国和牛能力共進会宮城大会会場
兵庫県ブース前にて

所 長 三 崎 博 史

爽やかな秋の季節を迎え、皆様にはますますご活躍のことと拝察いたします。

平素は、家畜衛生の推進について、ご理解とご協力をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

さて、最近の畜産情勢として、但馬牛の子牛・枝肉価格は、平成24年の神戸ビーフ輸出開始後から上昇基調となり、平成26年度以降過去最高水準の高値で取引されています。9月の但馬家畜市場でも平均90万円と引き続き堅調に推移しています。

また、今月は5年ぶりとなる全国和牛能力共進会が仙台市において開催され、本県代表として管内から13頭もの優秀な牛を出品いただき、各区で健闘されました。なかでも復興特別出品区(高校の部)では、但馬農業高校の生徒さんが出品牛展示と学校の取り組みを発表し、但馬牛に思いを寄せる若者の意気を強く感じたところです。

次に養鶏の話題として、昨年11月から今年3月にかけて9道県12農場において高病原性鳥インフルエンザの発生がありました。発生地においては防疫対策が迅速に行われ、まん延防止・早期の清浄化が達成されたところです。

本県では野鳥においてH5N6亜型ウイルスが確認され、養鶏施設に対して知事の消毒命令が発出されるなど、非常に緊張感が高まりましたが、幸いにも県内養鶏施設での発生は無く、胸をなでおろしたところです。今後、鳥インフルエンザ発生の本格的なシーズンとなりますので引き続き防疫対策の徹底、飼養衛生管理基準の遵守をお願いしたいと思います。

一方、2020東京オリンピック・パラリンピックに向けては、組織委員会が選手村等への食材提供のルールを決定し、「持続可能性」という観点から生産者等へJGAP (Japan Good Agricultural Practice) の取り組みを求めています。畜産分野では、日本GAP協会、中央畜産会が畜産版のJGAP認証の枠組み等を決定し、今年8月には畜産としては国内第一号となる認証農場が生まれ、全国的にも取り組みの気運が高まってきていると感じられます。

最後に、当所は平成27年からの建替え工事が昨年末で完了し、今年1月から新庁舎での執務となっております。名称も和田山家畜保健衛生所から朝来家畜保健衛生所に改称し、新たな気持ちで家畜衛生の推進に向けて取り組んでおります。

業務推進目標としては、

- ①伝染病発生時に対応できる危機管理体制の構築
- ②飼養衛生管理基準遵守の徹底指導
- ③HACCPの考えを取り入れた衛生管理手法の普及
- ④迅速な病性鑑定と的確な対策指導

の4本柱としており、家畜衛生の分野で管内の畜産振興に今まで以上に寄与したいと考えておりますので、職員共々、引き続きよろしく願いいたします。

2020東京オリンピック・パラリンピックに向け、選手村での農林水産物等の食材調達に関する基準が本年3月に組織委員会から公表されました。このなかで「持続可能性」というキーワードとともに示されたのが国際的な農産物生産管理の基準であるGAPまたは日本版GAP(JGAP)です。

GAPは農業生産工程管理と訳され、食品安全、環境保全、労働安全、動物福祉等に取り組むことにより生産活動の持続可能性を確保するという生産工程管理の取り組みのことです。具体的には、①生産手順のリスト化、②リストに従い作業実施、③作業の状況を記録、④うまくいかなかった要因の分析、⑤作業内容・方法の見直し、を繰り返すことで、生産物の品質や生産性の向上、信頼性の確保等につながるとされます。

国では、東京オリンピックをきっかけとして国産農畜産物の品質の高さと安全性を世界にPRするためにも、JGAPへの取り組みによりその価値の「見える化」を進め、国

際競争力を高めていきたいと考えています。また、生産者のこれらへの取り組みを通じて、農業生産の持続可能性の確保、競争力の強化、品質の向上、農業経営の改善や効率化など経営面のメリットとともに、消費者や実需者の信頼の確保を期待しています。

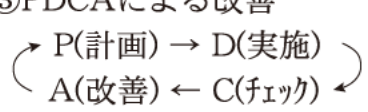
JGAPの認証農場数は農業分野では2016年3月末で約4000件となっていますが、畜産では認証体制の整備が遅れたこともあり、今年8月に群馬県の養豚場が全国第1号として認証されたところでした。

JGAPと同様に生産管理手法として農場HACCPがあり、県内でも取り組んでいる農場があります。農場HACCP認証農場ではJGAP認証において一部項目の審査を免除される差分審査を受けることが可能です。

さらに、より取り組みやすい「GAP取得チャレンジ」制度もあります。

今後ますます注目されるJGAPですが、興味をお持ちの方は当所までお問い合わせください。

表 JGAP家畜・畜産物と農場HACCPの比較

	JGAP家畜・畜産物	農場HACCP
目的	信頼性の高い生産管理で高品質で安全な農産物の提供	工程管理により食品による危害発生を予防
取り組む内容	①食品安全 ②環境保全 ③労働安全 ④人権保護 ⑤農場経営管理	①生産工程の管理 ②危害要因分析 ③PDCAによる改善 
審査組織	法人1団体、民間1社	法人1団体、民間4社
認証農場(H29.8.21)	1農場	107農場

【原因・症状】

ウイルス性下痢・粘膜病（BVD-MD）は、ウイルスの感染により起こる病気で届出伝染病に指定されており、近年発生が増加しています（表）。

表 BVD-MD摘発状況 (頭)

地域\年	24	25	26	27	28
全 国	189	228	259	310	406
うち北海道	124	127	167	248	304
うち兵庫県	2	1	4	4	7

感染牛との接触、空気伝播により感染し、一般的には一過性の発熱、呼吸器症状及び下痢を示す程度で回復し生涯免疫を獲得します。

しかし母牛から胎子へ感染すると、感染時期により流産・死産や奇形等の先天性異常、発育不良牛となります。

特に、妊娠初期から中期（胎齢およそ30日から120日）に胎子が感染すると、ウイルスに対する抗体を作らずウイルスを保有したまま生まれることがあります。このような牛を「持続感染牛 (=PI牛)」といいます（図）。

【本病の感染源となるPI牛】

PI牛は、一般的に発育不良や削瘦、下痢等の症状を示しますが、無症状のまま経過し成牛となることがあります。

PI牛は、生涯ふん尿や鼻汁からウイルスを排出し続け、他の牛への感染源となるだけでなく、PI牛の産子は必ずPI牛となるた

め本病が拡大していきます。

【対策】

1 感染牛の発見

育成牛では発育不良や先天性異常（時に下痢、呼吸器症状）を示した場合、妊娠牛では異常産（流産・奇形）等を起こした場合、獣医師または家畜保健衛生所へ連絡し検査を受けて下さい。

2 侵入防止

ウイルスを農場内に侵入させないため飼養衛生管理基準の遵守（車両・靴裏消毒、導入牛の隔離観察など）や導入牛の検査を実施して下さい。

3 発生予防

ワクチン接種が有効です。生ワクチンと不活化ワクチンがあります。妊娠牛への生ワクチン接種はPI牛の誕生につながる可能性があるため避けて下さい。

4 まん延防止

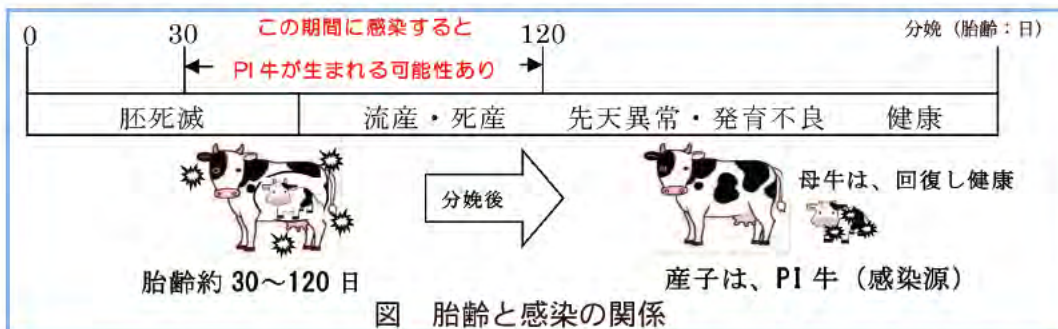
ウイルスを排出し続けるPI牛の早期発見と淘汰が必要です。

PI牛が発見された場合、自主淘汰に掛かる費用（評価額の2/3以内）やワクチン接種費用の助成※があります。

※家畜衛生農場清浄化支援対策事業（兵庫県畜産協会）

【家畜保健衛生所による浸潤状況調査】

今年度からヨーネ病定期検査時に採材した血清を用いてBVD-MDの浸潤状況調査を実施



しています。今年4月に管内酪農場20戸712頭の検査を行った結果、幸い感染牛は発見されていません。

今春、淡路地域でピートンウイルス（PEAV）感染による牛の異常産が発生しました。管内の農場でもPEAV抗体を保有する牛が確認されたことから、注意が必要です。

【PEAVによる異常産について】

PEAVは、吸血昆虫によって媒介されるアルボウイルスの1つで、アカバネ病ウイルス等と同属のウイルスです。九州・沖縄地方では、PEAVの関与を疑う異常産事例が散発しており、PEAV抗体保有状況調査では、中四国、近畿、東海、関東、東北でも抗体保有牛が認められています。

症状は、アカバネ病等による異常産と同様です。妊娠牛がPEAVに感染すると、胎盤を介して胎子体内で増殖し、流死産及び体型異常、中枢神経異常などの先天性異常を起こします。

【淡路地域発生事例の概要】

2017年3月、異常産3種混合ワクチンを接種している4産目の母牛から、体型異常（写真）を伴う死産胎子が娩出されました。胎子は、胎齢285日でしたが、著しく小型で、脊椎のS字状湾曲、小脳低形成などが認められました。死産胎子、母牛から、PEAV抗体が確認されましたが、すでにPEAVは消失しており、新たな感染源にはなりません。また同居牛検査では、半数にPEAV感染が確認されました。



写真 死産胎子の外貌（淡路家保より提供）

【予防】

牛異常産3種混合ワクチンにピートンウイルスが新たに追加された牛異常産4種混合ワクチンが販売されています。3種混合ワクチンと同様に、ウイルスを媒介する吸血昆虫発生前の4～5月に接種してください。

淡路地域では、乳用牛・繁殖牛の約80％にこの4種混合ワクチンを接種しています。現在のところ、管内でPEAVによる異常産は発生していませんが、抗体保有牛が確認されています。PEAVによる異常産予防のために、4種混合ワクチン接種を検討されてはどうか？また、このような異常産があった場合には当所までご一報ください。



全国及び県内の監視伝染病発生状況（平成28年1月～12月）

○発生があった主な家畜伝染病

病名	畜種	全国		県内		管内	
		戸数	頭羽群数	戸数	頭羽群数	戸数	頭羽群数
ヨーネ病	牛	315 (▲12)	624 (▲67)	1 (-)	1 (-)	0 (▲1)	0 (▲1)
ヨーネ病	山羊	1 (-)	1 (-)	0 (▲1)	0 (▲1)	0 (▲1)	0 (▲1)
流行性脳炎	豚	5 (3)	17 (14)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
高病原性鳥インフルエンザ	鶏	5 (3)	27 (14)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
高病原性鳥インフルエンザ	あひる	2 (2)	14 (14)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
伝達性海綿状脳症	めん羊	1 (1)	1 (1)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
腐そ病	蜜蜂	43 (▲16)	90 (▲40)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)

○発生があった主な届出伝染病

病名	畜種	全国		県内		管内	
		戸数	頭羽群数	戸数	頭羽群数	戸数	頭羽群数
牛ウイルス性下痢・粘膜病	牛	222 (64)	406 (96)	6 (4)	7 (3)	0 (-)	0 (-)
牛伝染性鼻気管炎	牛	15 (1)	648 (519)	0 (▲1)	0 (▲3)	0 (-)	0 (-)
牛丘疹性口炎	牛	5 (1)	10 (▲7)	1 (1)	1 (1)	0 (-)	0 (-)
牛白血病	牛	1,998 (▲25)	3,125 (256)	143 (▲5)	153 (1)	9 (1)	9 (1)
破傷風	牛	73 (▲8)	76 (▲7)	0 (▲1)	0 (▲1)	0 (-)	0 (-)
サルモネラ症	牛	49 (▲18)	156 (42)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	豚	108 (▲5)	348 (47)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
豚繁殖・呼吸障害症候群	豚	29 (▲5)	82 (▲49)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
豚流行性下痢	豚	87 (▲131)	35,474 (▲46,564)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
豚丹毒	豚	588 (▲268)	2,376 (▲1,004)	5 (▲3)	7 (▲13)	0 (-)	0 (-)
鶏痘	鶏	15 (3)	45 (▲3)	2 (1)	15 (13)	1 (1)	10 (10)
マレック病	鶏	64 (▲14)	1,011 (▲1,943)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
伝染性気管支炎	鶏	21 (9)	3,029 (▲1,688)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
伝染性喉頭気管炎	鶏	1 (▲4)	5 (▲16)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
伝染性ファブリキウス嚢病	鶏	3 (▲12)	48 (▲26)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
鶏白血病	鶏	4 (▲13)	4 (▲30)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
鶏マイコプラズマ病	鶏	16 (10)	58 (35)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
ロイコチドゾーン病	鶏	14 (▲3)	529 (175)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
レプトスピラ症	犬	24 (▲12)	24 (▲13)	1 (▲1)	1 (▲1)	0 (▲2)	0 (▲2)

農林水産省 監視伝染病発生年報より () 内は前年からの増減を示す ▲：減少

新規採用職員紹介

はじめまして。今年度から朝来家畜保健衛生所で勤務しております 山本智喜（ヤマモトモキ）です。



幼少期から高校まで大阪府で過ごしました。小学生の頃に飼っていたハムスターを妹が誤って踏んでしまい、瀕死の状態になる事故がありました。それを近所の獣医さんが手術して、元気に生活できるまで回復させたことに憧れ、獣医師を志しました。宮崎大学での6年間、牛や豚など家畜に触れあう機会が多く、2010年の口蹄疫発生を身近で経験し、また懸命に復興に努力する生産者の姿を目の当たりにし、畜産を支える仕事に就きたいと思い、関西一の畜産県である兵庫県に就職しました。

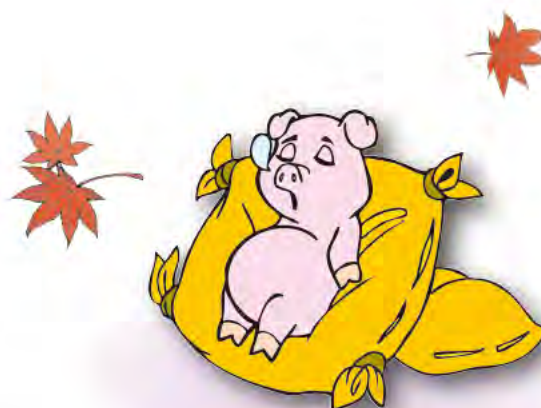
就職して5か月が経ちますが、これまで兵庫県にゆかりもなかった私を、朝来家保の先輩方は暖かく迎え入れて下さり、但馬での生活にも少しずつ慣れてきました。但馬は温泉が多いので、休日には温泉巡りを楽しみたいと思います。

仕事では、農家の方々と接する機会も多く、大学では学べない事を身をもって経験する毎日を送っています。今後は、多くの事を学び、畜産振興の一助になれるように頑張っていきたいと思いますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

平成29年度 職員配置

本年度は以下の職員で業務を行います。よろしく申し上げます。

所長	三崎 博史 (県立但馬牧場公園より)
副所長兼衛生課長	浦本 京也
衛生課	課長 (副所長兼務) 畜産専門員 野田 昌伸 主任 岡田 邦夫 (再任用) 主任 宮田 静 主任 中本 雅也 職員 加地 理紗 (明石健康福祉事務所より) 臨時職員 清水 五郎 嘱託職員 宮谷 祥子
防疫課	課長 木伏 雅彦 担当課長補佐 山本 剛 (加東農林振興事務所より) 職員 松倉 大樹 職員 山本 智喜 (新規採用)
病性鑑定課	課長 三木 隆広 主任 瀧 麻香 職員 寺谷 知恵



編 集 後 記

最近、東京オリンピック・パラリンピックの話題を良く目にしたり耳にしたりします。陸上、水泳、卓球、バトミントン、柔道など世界選手権や世界大会で優勝したりメダルを獲得したりと、オリンピックでの活躍が期待される若い有望選手が目白押しです。彼ら彼女らは、それぞれの競技に幼い頃から真剣に打ち込み、体を鍛えたり技術を磨いたりして才能を開花させています。幼き日の彼らの目標は、「オリンピックで金メダルを取ることです」。今の彼らの姿は、目標に向かって真摯に突き進んだ結果と敬意を表します。年を重ねるとともに同世代のライバルと切磋琢磨し能力を高めていますが、見逃してはいけない点があると感じます。

それは節目節目に適切な目標を設定し、その目標を達成するための計画を立てていることです。オリンピックが目標であれば、2020年には20歳代、それまでの時間を無駄にしないために、例えば12歳には□□、15歳には△△、18歳には○○の記録（または大会での成績）を達成する、という風に。

目標を立て、その過程を計画立ててきちんとスケジュール管理し、一つずつそれを達成していく、何事にも通じるところだと感じます。

個人的なことですが、この夏、富士山に登りました。登ったのは山小屋泊を含め2日間の行程でしたが、そのための体力面の準備はそれ以前から（自分としては珍しく）計画を立てて可能なところは実行しました。登山ガイドの適切な案内や、同行の皆さんのおかげもあり、高山病にもならずご来光らしきものも拝むことができました。トップアスリートとは比べるべくもありませんが、事の大小はともかく、目標と計画、それぞれにきちんと持ちたいものです。

(KU)

